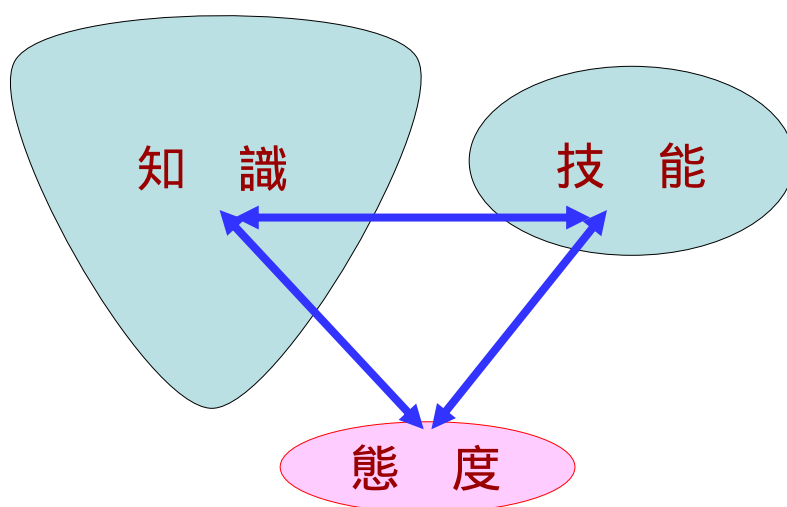


6年制教育のOSCEについて

薬学部OSCE委員会

平成21年9月27日

今までの医療人教育



医療人教育カリキュラムの改革

モデル・コアカリキュラムの提示

薬学部

平成14年8月

薬学教育モデル・コアカリキュラム

平成15年10月

実務実習モデル・コアカリキュラム

医療人教育 モデル・コアカリキュラム

- ・全大学で必修（全カリキュラムの70%）
- ・社会のニーズを配慮
- ・一般目標、到達目標を記載
- ・講座別 系統別（臓器別、基礎+臨床）
- ・態度・技能教育の拡充
- ・実務実習の拡充

薬学教育年限延長に際して 中央教育審議会が示した課題

- 1) 参加型実務実習
- 2) 共用試験
- 3) 第三者評価

参加型実習の目的と条件

「資格のない学生には実施させない」 から
「実施できない学生には資格を与えない」 へ

実施の条件

事前に学生の評価(バリア)を行うこと 共用試験
患者等の同意(インフォームド・コンセント)を得ること
適切な教育能力をもつ指導者が指導すること

実習行為の適法性(違法性の阻却)

共用試験 = 臨床実習前のバリアの導入

臨床実習の前に、実習を満足に行うことのできる知識・技能・態度が備わっているかを判定する試験

・**CBT**(computer -based testing)

MCQ問題(310題、6時間)

知識

コンピュータ画面上で出題

隣とは異なる、前問に戻れない etc

・**OSCE**(Objective Structured Clinical Examination)

第三者による評価

技能・態度

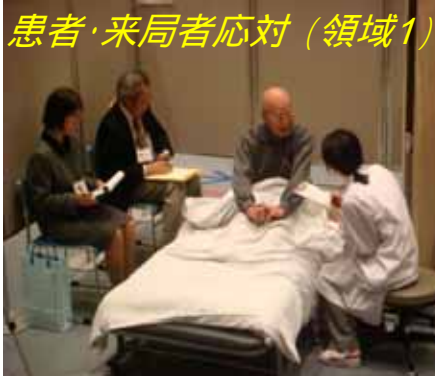
薬学共用試験OSCE 課題

数十課題を用意

領域	課題
患者・来局者対応	1-1 薬局での患者対応
	1-2 病棟での初回面談
	1-3 来局者対応(健康相談)
薬剤の調製	2-1 計量調剤(散剤)
	2-2 計量調剤(水剤)
	2-3 計量調剤(軟膏)
	2-4 計数調剤(錠剤・外用剤)
調剤鑑査	3-1 調剤薬鑑査
無菌操作の実践	4-1 手洗いと手袋の着脱
	4-2 注射剤混合
情報の提供	5-1 薬局での薬剤交付
	5-2 病棟での服薬指導
	5-3 一般用医薬品の情報提供
	5-4 疑義照会

薬学共用試験OSCE

患者・来局者対応 (領域1)



薬剤交付 (領域5)



散剤調剤 (領域2)



水剤調剤 (領域2)



調剤鑑査 (領域3)



無菌操作 (領域4)



薬学共用試験OSCEの実施概要

薬学共用試験実施要項

- 平成21年12月～22年1月に本試験
平成22年2月～3月に再試験
- 5領域から6課題を実施
約2か月前に各大学に提示
学生には全課題にわたる学習・評価項目を事前に提示
- 各課題5分間で実施
どの大学でも同一の設定で標準化
- 評価者2名が共通の評価表で評価
- モニター員、外部評価者が参加
透明性と標準化を担保
- 標準模擬患者(SP)が領域1・5の患者役
- 本試験不合格者は不合格課題を再試験
合格基準を明示:評価細目70%以上、2名の概略評価5点以上
再試験は不合格課題について実施

学習・評価項目 - 評価細目 -

1-3来局者対応

- 【はじめに】
 - あいさつ
(失礼でない声かけ、適切なお辞儀、「こんにちは」「お待たせしました」など)
 - 自己紹介
(フルネームあるいは姓で自己紹介、実習生である事を名乗る)
 - 薬局にきた目的を尋ねる
(どうされましたか?など)
 - インタビューの目的を話し、同意を得る
- 【来局者の状況把握と確認】
 - 症状を確認する(局所症状ならば部位も)
 - 症状の程度や性状を確認する
 - 症状の経過を確認する
 - 合併症状を確認する
 - 来局者の気持ちや不安について尋ねる
(症状や体調についての気持ちや不安について尋ねる。インタビューのどの段階でもよい。ご自分の症状や具合についてどのようにお思いですか?不安がありますか?など)
 - 既往歴を聞く
 - アレルギー歴(花粉症、食品など)を確認する
 - 副作用歴を確認する
 - 受診の有無を聞く
 - 現在使用中の薬を確認する
 - 現在使用中の健康食品・サプリメントを確認する
 - 喫煙・飲酒の有無とその量を確認する
- 【クロージング】
 - 質問や言い忘れがないか尋ねる

2-1 計量調剤（散剤）

【調剤前】

- 身だしなみは清潔にしている

【薬袋の作成】

- 患者氏名を正確に記載する
- 1日の服用回数を正確に記載する
- 服用日数を正確に記載する
- 服用時期を正確に記載する
- 1回服用量を正確に記載する
- 調剤年月日を正確に記載する
- 薬剤師名欄に氏名を記載する

【計算】

- メモ用紙を用いて適切な計算を実施

【秤量】

- 天秤の水平を確認する
- 清潔な秤量紙（秤量皿）を天秤にのせる
- ゼロ点あわせをする（薬剤ごとに）
- スパーテルを清潔にする（薬剤ごとに）
- 薬剤を正しく選べる
- 薬剤の確認をする（取り出す・計る・しまうときの三回）
- 薬剤を正確に秤量する

【混合】

- 乳鉢・乳棒を清潔にする
- はかり取った全ての薬剤をこぼさずに乳鉢へうつす
- 乳鉢・乳棒を手を持って混和する
- 十分に混和する
- こぼさずに混和する

【分包】

- 薬包紙を必要枚数ならべる
- 薬包紙に均等に分割する
- こぼさずに分割する
- 薬包紙を正しく折る
- こぼさずに折る

【片付け】

- スパーテルを清潔にする
- 調剤台を片付ける

【全体を通して】

- 操作の流れがスムーズである
- 薬袋に読みやすく書く
- 装置瓶の持ち方が適切である
- スパーテルの持ち方、使い方、置き方が適切である
- 薬包紙の折り方が適切である
- 清潔への配慮がある
- 処方せんの処方欄への書き込みはしない
- 片付けへの配慮がある

学習・評価項目 - 医薬品リスト

医薬品リスト

OSCEの課題には以下の医薬品が含まれる

アダラートL錠 アモバン錠 アレグラ錠 ウルソ錠
オイグルコン錠 ガスターD錠 テノミン錠 ナイキサン錠
ニポラジン錠 フロモックス錠 メプチン錠 ロキシニン錠
セフゾンカプセル セルベックスカプセル ムコソルバンLカプセル
MS冷シップ ニトロダームTTS ホクナリンテープ
フルナーゼ点鼻液 パルミコート100タービュヘイラー
PL顆粒 アスベリン散 アレピアチン散 酸化マグネシウム
乳糖 ピリナジン末 フェノバル散 フスタギン末
ペリアクチン散 メジコン散
アスベリンシロップ カロナールシロップ テオドールドライシロップ
ピソルボンシロップ ペリアクチンシロップ ポララミンシロップ
ムコダインシロップ
亜鉛華軟膏 アズノール軟膏 ヒルドイドソフト リンデロンV軟膏
水溶性プレドニン 生理食塩水 ソルデム 注射用水
ピタメジン注 フラビタン注 ペントシリン注
セデス・ハイ ガスター10 アルガード鼻炎ソフトカプセル

よき医療人、
よき薬剤師の育成のため、
OSCEの趣旨のご理解と
評価者としてのご協力を
よろしくお願いします。